九州 MS・CIDP センターの開設ご案内

多発性硬化症(MS)も慢性炎症性脱髄性多発神経炎(CIDP)も、ともに国指定難病です。髄鞘といって、神経の突起（軸索）を覆っている、ビニールのような成分が、自己免疫で破壊される病気です。MS は、脳・脊髄・視神経といった中枢神経を、CIDP は手足や顔面などへの末梢神経を侵すという違いがあります。両者ともに手足のしびれ、麻痺、痛みが主な症状です。さらにMS では、眼が見えにくい、しゃべりにくい、足がふらつく、手が震えるといった様々な症状が出てきますので、早い時期に診断をつけるのが難しい病気です。

MS も CIDP も原因が不明で、完全にこれらの病気を治すことはできません。いったん発病すると、再発を繰り返したり次第に進行したりする病気と生涯付き合っていかないといけません。これまではいい治療法がなくて、障害が次第に重くなり、就労や就学、毎日の生活にも支障をきたすことが多かった病気です。

ところが、最近、様々ないい治療法が開発され、日本でも医療保険で使うことができるようになりました。これらの新しい治療で、再発を 90%くらいも抑えたり障害の進行を遅らせたりすることが可能になったのです。実は、MS も CIDP もいろいろなタイプがあり、個人個人で病気の出方や進み方が大きく違います。そこで、これらの新しい治療薬は、病気を早く診断して、病気の勢いに応じて、使い分ける必要があります。

そのため、日本神経免疫学会では、MS や CIDP の病気や治療薬について最新の知識と経験がある医師を、神経免疫診療認定医として認定しています。当院には複数の神経免疫診療認定医が常勤しています。また診断には神経伝導検査、誘発電位検査といった、臨床神経生理学的検査が欠かせません。これは日本臨床神経生理学会が専門医を認定しており、当院には複数の臨床神経生理学会認定の専門医がいます。もちろん脳神経内科の専門医は 8 名もいて、福岡市内の一般病院では最も多いです。いずれも診療経験の豊富な医師ばかりです。

そこで、これらの専門医のマンパワーを結集して MS や CIDP の診療を専門的に実施する九州 MS・CIDP センターを、当院脳神経センター内に開設することにしました。実は、MS や CIDP は、これまでは大学病院で診断・治療されることが多かったのですが、大学病院はどこも患者さんが多くて、すぐ診てもらったりすぐ入院治療したりすることがなかなかできません。MRI の撮影の予約に何か月もかかったりします。

当院に脳神経内科が開設されて、6 年近くになりますが、この間に外来看護師や放射線技師、理学療法士、臨床検査技師など、MS・CIDP 診療に関わるメディカルスタッフの経験と能力も大幅に向上しました。そこで、当院の九州 MS・CIDP センターでは、専門医とこれらのメディカルスタッフがチームとなってより質の高い診療を実施します。当院は、現在、12 階建ての新病院を建築中で、来年 12 月にはアメニティの高い新病院に生まれ変わります。

MS・CIDP に似た症状があるけれども診断がついていない方、診断がついていても治療がうまくいっていない方や治療法の選択に不安のある方など、幅広く当 MS・CIDP センターで対応いたします。また専門的な立場からの意見をお聞きになりたい方は、セカンドオピニオン外来も行っています。遠方の方では、お近くの主治医の先生と連携して年に 1、2 回当院を受診されることもできます。

MS、CIDP では、早期に正しく診断すること、そして病気の勢いを正確に判断することが大事です。的確な診断に基づいた治療法の選択で、大きく経過が違ってきます。そこで、大学病院並みの専門的な診療を迅速に提供することを目指して、九州 MS・CIDP センターをスタートします。

2024 年 11 月 1 日

九州 MS・CIDP センター長
福岡中央病院脳神経センター長
吉良潤一

九州MS・CIDPセンター

このような症状があるときは、受診されることをおすすめします

MRI検査（3テスラ）

頭・顔

顔がしびれる、痛い
もの忘れがある

眼

見えにくい
ものが二重にみえる

口

しゃべりにくい
飲み込みにくい

足

歩きにくい
ふらつく
力が入らない
足が細くなった
ジンジンする

手

ふるえる
力が入らない
筋肉がやせた
しびれた感じがする

誘発電位検査

外来・入院リハビリ

神経伝導検査

外来・入院パルス療法、免疫グロブリン療法、抗体療法、疾患修飾薬、リハビリテーション

脳神経内科専門医8名・神経免疫診療認定医2名・臨床神経生理学会専門医2名